

簡易版 TP (ティーチング・ポートフォリオ)

氏名	土井 貴子
所属機関名	教育学部 初等教育学科
職位	准教授
在籍年	5 年

教育の責任

教育学の基礎理論科目を担当している。担当している科目は、教職論、教育学原論、教育史の3つの講義科目と、教育学演習(教育史)、探究ゼミの2つの演習科目である。その他に学科教員全員で担当する科目をオムニバス等で担当している。講義科目では、主として教職の意義や教師に求められる資質・能力について検討したり、教育の理念並びに教育に関する歴史や思想を概説したりしている。

学生が教育についての基礎的理解を深めることができるようにすること、さらに学生が教わる側から教師として教え導く側へと視点を転換することができるようにすること、この2つが教育学の基礎理論担当として教員養成を掲げる学科教育で負っている責任であると考えている。これによって学生は漠然とした「小学校の先生になりたい」という思いを明確な目標にすることができると思う。

教育の理念

「先生になりたい」という思いをもって入学してくる学生が教育学や教科教育学の授業を受けて、教育って面白いし魅力的だと感じたり、人とかがかわることは楽しいと思えたり、自分の思いを伝えたり相手の考えを聞くことにわくわくできる学生を育てたい。そのためには、自分自身が教育は面白い、学生たちから学ぶことを楽しめるそうした教員になりたいと思う。

教育の理念は3つある。一つ目は、学生が根拠をもって自分の考えを述べるようになることである。二つ目は、学生がなぜと問うことや、当たり前だと捉えず批判的な思考ができるようになることである。三つ目は、学生同士や教員である私を含めて新しい知見を共有したり、議論したりして、ともに学ぶことである。

とくに大切にしたいのが一つ目の根拠をもって自分の考えを述べることである。教育という営みは自らが経験をしてきた・経験していることであり、誰もが何かしらの考えを述べることができる。だからこそどのような視点から何を根拠に述べているのかを学生が意識することが大切である。そのうえで、自分の経験ではなく、受けた講義内容や他の科目の講義内容、教職論や教育原理のテキスト内容、薄弱であってもこうした知識を根拠として自分の気づきや考えを述べることである。根拠をもって自分の考えを述べることは、信頼できる情報を読み取りそれに基づいて判断し、筋道を立てて考え意見を述べることにつながっていく。また学生が教員になった際にも自信をもって判断したり生徒に伝えたりできると考える。

教育の方法・方針

教育の理念の一つ目の根拠をもって自分の考えを述べることは、授業後の学びの振り返りによって実践している。教職論と教育学原論の授業において、例えば、授業の冒頭に学生がもつイメージや考えを聞き、コメントペーパーに記入させ、講義を終えて自分の考えを振り返り、

理論を踏まえて自分の考えをまとめる方法をとっている。講義で立場の異なる複数の解釈を示したうえで、講義後に再度どのように考えるのか、なぜそう考えるのかをコメントペーパーでまとめさせるようにしている。

二つ目の批判的思考は、文献を読み、当たり前を問い、批判的に考えさせることによって実践している。学生が「なぜ」、「なんのために」、「誰のため」を考えることができる批判的な思考力の育成は、文献講読の演習で取り組んでいる。学校教育で「当たり前」とされてきたことに光を当て、「なぜ」今そうなっているのか、どのようなプロセスでそうなったのかを明らかにする文献を取り上げ、今の教育のあり方が決して当たり前ではないことに学生が気づくことを期待している。

三つ目の議論し、ともに学ぶことは、演習やゼミで取り組んでいる。演習では、学生は文献を事前に読んでくきて必ず1回は質問をすること、発表する学生はレジュメを作成し、わからないことを事前に調べ、レジュメに基づいて発表し、他の学生からの質問に答えたり、論点を提示して議論したりする方法を採用している。学生全員がグループになって議論し、意見を発表し共有する。学生の発表から私自身もこんな考え方があるのかとわくわくしたり、新しい知見を得たりすることができる。

教育の成果

批判的に考える・第5回「知の表現道具」(2023年度)：当たり前として考えることのなかったノートと鉛筆も歴史的につくられたものであり、その定着によって子どもの学習環境条件が大きく変化したことに学生は気づくことができた。「学校で使われる道具の変化、学校空間の変化は、教師と子どもにとってどのような影響をもたらすだろうか？」という論点が提示され、道具が変われば学習方法も変わる、文化変容に応じた柔軟な指導が説かれた。批判的に考えるまでは至っていないが、当たり前を問うことができていると考えられる。

今後の目標

短期目標としては、3つの理念をこのまま大切にしたい。教育を通して、根拠をもって自分の意見を述べることができ、批判的に思考でき、児童や他の教員と一緒に学んでいくことができる小学校教員を養成したい。よって、今の理念を具現化する方法を試行錯誤しながら改善していくことが短期的な目標である。根拠をもって自分の考えを述べるようになることについては、学生に何を考えてほしいのかを明確にすること、コメントペーパーの内容の共有やフィードバックのあり方を改善することがあげられる。

長期的目標については、専門である教育史に興味関心をもつ学生が減少傾向にあるように感じている。教育の基礎理論についても同様である。教師になってすぐに役立つ実践的な知識や技能だけでなく、迷ったときや今を理解したい時に支えとなるものとして教育思想や教育史の理論を捉えることができる教員を育てたい。

根拠資料

授業評価アンケート、授業資料、コメントペーパー、提出課題